



ほけんだより

令和5年2月3日
七尾市立東湊小学校 保健室

◆全国学校給食週間(1月24日～1月30日)

1月24日から30日までの1週間は、全国学校給食週間でした。学校給食は、明治22(1889)年に山形県鶴岡市で初めて実施されて以来、各地に広がりましたが、戦争のため中断されました。昭和22(1947)年に給食が再開されたことを記念して、「全国学校給食週間」が定められました。

保健・給食委員会では、「給食のはじまり」について動画を作りました。動画は各クラスで視聴しました。元気に勉強できるのは給食のおかげであると感じた児童が多かったようです。

全国学校給食週間は終わりましたが、これからも感謝の気持ちをこめて、「いただきます」、「ごちそうさまでした」と言えたらいいですね。保健・給食委員会の5年生、6年生のみなさん、動画の撮影おつかれさまでした!



保護者の皆様へ

本校ホームページに動画を掲載いたしました。ホームページ右上の「ログイン」をクリックしていただくとログインIDとパスワードの入力画面が出ます。下記のログインIDとパスワードを入力してください。

ログインID 2023hh

パスワード 0201

ログインするとメニューに「動画配信」ボタンが追加されますので、そちらをクリックしてご覧ください。

【お願い】この動画は本校児童のご家族が視聴するものですので、ログインID及びパスワードの取扱いには十分にご注意ください。閲覧期間(令和5年2月3日～令和5年3月24日)

◆給食の「食べ残し」って、どのくらいあるか知っていますか?

給食の食べ残し量	
(令和4年12月8日の給食で調査)	
・牛乳	9.7kg
・ごはん	13.4kg
・卵焼き	2.3kg
・サラダ	4.5kg
・みそ汁	25kg
合計	54.9kg



ゴミ袋2つ分

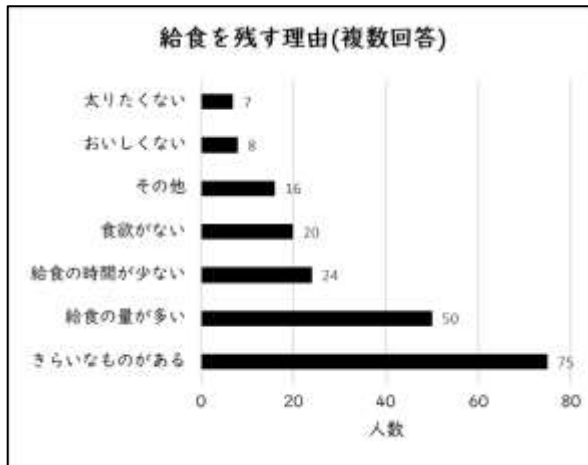
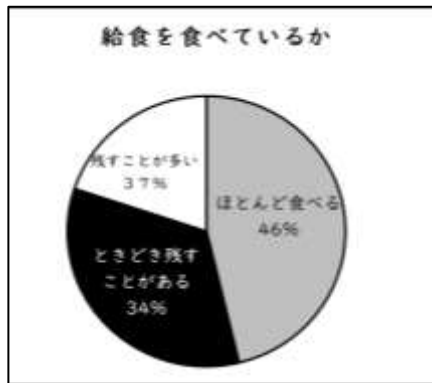


食べ残しの水分をよくしぼってからゴミ袋に入れています

山王給食センターでは、東湊小学校、山王小学校、七尾東部中学校の児童生徒、合わせて約900人分の給食を作っています。栄養教諭の清森先生に、給食の残食量について聞きました。昨年12月8日の給食の残食量は、3校合わせて、54.9kgでした。ゴミ袋(七尾市指定ゴミ袋 大サイズ)2つ分になりました。残したものはすべて、山王給食センターに隣接したゴミステーションに捨てられます。

◆給食を残してしまう理由について

令和4年5月の生活アンケート結果より



給食を残してしまう理由は「好き嫌い」だけではありません。「給食の量が多い」、「給食の時間が少ない」などの理由もあることが上のアンケート結果からわかります。給食の量が多いと感じる人は、先生に相談してくださいね。また、給食が早く食べ始められるように、給食の準備をみんなで協力してがんばりましょう！

◆SDGs 「つくる責任、つかう責任」

みなさん、SDGsってなにか知っていますか？ 2015年に国際連合サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に定められた17の目標が「SDGs(持続可能な開発目標)」です。世界のすべての人が、安心安全な暮らしができること、地球に住み続けられるように環境問題を解決・改善することを目指しています。その中でも、12番目の目標「つくる責任、つかう責任」について、少しだけ紹介します。



私たち人間の生活は、魚を捕りすぎたり、森を切りすぎたりして、未来に残さないといけぬ資源やエネルギーを使いすぎています。私たちがこれから先もずっと地球で生活ができるようにするための、生産(つくる)と消費(つかう)のサイクルをつくり上げることを目指した目標が、「つくる責任、つかう責任」になります。大量生産・大量消費を代表するのが、「食べ物」です。日本では、食べ残しや賞味期限切れなど、まだ食べられるのに、捨てられてしまう「食品ロス」が大きな問題となっています。

*給食をできるだけ残さずに食べることも、食品ロスの削減につながります。

【絵本「いのちをいただく」より】

食べ物がみちあふれている時代に、食べ物のありがたみを伝えることはむずかしい。食べ物を粗末にしてはならないと、教えることはむずかしい。その食べ物が、すでに粗末にされている。日本の1年間の食品廃棄量は2,000万トン以上。1人1日1,800キロカロリーで生活している発展途上国での3,300万人の年間食料に相当する。そんな時代に、どのようにして食べ物のありがたみを伝えるか。

「命」でしかないのだと思う。

私たちは食べ物を食べて生きている。生きることは食べること。すべての食べ物は命だ。肉も魚も野菜も米も、すべてが種を残そうとする生命体だ。人が生きるということは、命をいただくこと。殺すこと。

私たちの命は、多くの命に支えられている。それを実感したときに、食べ物のありがたみがわかる。食べ物を粗末にしてはならないとわかる。

(絵本「いのちをいただく」 著者:内田美智子 あとがき:佐藤剛史「いただきますということ」より抜粋)